

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

重点目標：1. 令和6年度カリキュラムを円滑に運営する。/ 旧カリキュラムで入学した学生の単位修得における不利益を生じさせない(看護学科)

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
カリキュラム運営・旧カリキュラム生の単位修得への取り組み(看護学科)	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4(2022)年度改正カリキュラムの3年目。今年度より3学年全てのカリキュラムが新カリキュラムとなった。</li> <li>旧カリキュラム対象学生に対し、不利益が生じないよう補講対象科目の単位修得に向け、支援を行った。また新カリキュラムへの読替科目は、読替表を作成し、確実に科目を受講することができた。</li> <li>カリキュラム改正に伴い3年次で受講予定の旧カリキュラム科目だった科目(母性看護方法論Ⅲ・成人看護方法論Ⅶ・成人看護実践論Ⅱ)は補講を計画し実施した。対象学生全員が単位修得できた。</li> <li>また、令和7(2025)年3月現在、2年次に在籍の科目履修生は、昨年度に未修得となった読み替え科目及び消滅した科目について、今年度も再度受講し単位修得した。(対象学生4名)</li> </ul> <p>[単位修得の科目] 病態治療論Ⅲ、病態治療論Ⅴ、看護技術論Ⅻ、成人看護方法論Ⅱ、精神看護方法論Ⅲ、母性看護方法論Ⅲ、成人看護実践論Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看護方法論Ⅱ、老年看護実践論Ⅲ、は、不合格となった学生(2名)がいる。この学生(2名)は、学習状況に課題があったため、次年度修得できるよう個別的な支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次の旧カリキュラム科目では、在宅看護方法論Ⅱ、老年看護実践論Ⅲを不合格となった学生(2名)を除いて全員が単位修得することができた。</li> <li>また、読み替え可能な科目についても読み替え表の作成により漏れることなく確実に実施できた。</li> <li>しかし、不合格となった理由は、カリキュラムの運営に関する課題ではなく、学生個々の学力に課題があったといえる。</li> <li>したがって学生が不利益を被ることなく目標は達成したといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧カリキュラムの学生においては、新カリキュラムへの読替表を作成したことで滞りなく受講することができた。単位修得状況に関しては、学生個々の学習状況の課題によるもの。</li> <li>新カリキュラムでは、今年度入学した学生の中には、8科目もの科目が不合格となった学生が存在する。次年度単位修得できるように個別に支援していく。</li> <li>カリキュラムの運営に関しては、補講科目の計画・実施を滞りなく行えた。また読替科目については、読替表に基づき、科目履修生担当教員が履修科目の漏れがないことを複数回確認したことで、科目の受講及び単位の修得に至ったと評価する。</li> <li>よって旧カリキュラム学生にとって不利益を生じさせない運営だったと評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム改正の対応は、学生に不利益が生じないよう、丁寧にされており評価できる。</li> <li>学生個々の学習状況により不合格となった学生へは、スタッフの体制を整え、「学内評価」にあるとおり引き続き支援を続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム移行以前の回生で3年次に在籍する学生は、旧カリキュラムでの運営が必要。</li> <li>したがって次年度は、①成人看護方法論Ⅶ②成人看護実践論Ⅱの2科目が補講となる。(母性看護方法論Ⅲは、2年次開講の母性看護方法論Ⅱの読み替えが可能であるため2年次に単位修得している。)</li> <li>今年度と同様、対象学生にとって不利益が生じないようカリキュラムの調整を行っていく。</li> <li>また、今年度、成人看護実践論Ⅱの単位未修得になった学生においても引き続き次年度補講実習を計画する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4(2022)年度改正カリキュラムの3年目。計画通り、学内授業・臨地実習とも滞りなく実施した。</li> <li>臨地実習では、前年度と同様に病院・助産院と細やかな調整を行い、実習に臨んだ。</li> <li>今年度末に実習施設(病院)の指導者に参集いただき、臨床指導者会議を実施。「Z世代の助産師学生を指導する時の工夫」のテーマで、実習指導上で困ったことや良かったことを話し合い、工夫できることを共通認識できるようグループワークを行なった。全体討議として、グループの意見や工夫できる点を発表していただき、全員で共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>59回生(令和6(2024)年度入学生)は、28名中2名が退学した。その理由は一身上の都合、進路変更としている。</li> <li>59回生26名(退学者2名を除く)はすべて単位修得し卒業した。26名全員が臨地実習で9件以上の分娩介助を経験した。</li> <li>また、今年度の科目履修生は、未修得科目の単位修得ができ、卒業した。</li> <li>上記結果より、カリキュラム運営は円滑に行えたと判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床指導者会議において、複数施設より分娩件数の減少が報告され、また合併症を有しており、麻酔分娩が主流になりつつあることから、学生の分娩介助指導を危惧しているとのご意見をいただいた。</li> <li>適切な調整に努めたが、臨床と教員は、更に学生指導に対する伝達・共有を密に行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床指導者会議の取組は評価できる。</li> <li>Z世代の特性を踏まえ、学生指導に取り組んでいることは評価できる。</li> <li>タイムパフォーマンス及びコストパフォーマンスを重視すると言われているZ世代への対応として、単に授業時間を短縮するのではなく、授業時間の配分を工夫するとよいのではないかと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産学実習は、病院、助産院と連携を密に行い分娩介助10件をめざす。(継続)</li> <li>学生指導にあたり、臨床と学生のレディネスを共有しつつ、指導者と教員間の「学生観」「指導方法」を共有し、学生の成長を支援するよう努める。</li> <li>実習指導教員の助力を得て、臨床の実習指導に対する戸惑いに対し、適宜対応していく。</li> <li>実習記録の一部見直しを継続して行う。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

重点目標：2. 令和7年度入学生を確保する(看護学科)

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入学生確保	看護学科	<p><b>【入学者の数的確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに科長及び副学科長によるWEB会議システムでの個別説明会(11回)や、個別学校説明会(希望した2校)を実施した。</li> <li>また、進路指導担当教育等向け学校説明会の実施回数を増やした。(1回→2回)</li> <li>オープンキャンパスは、計12回実施した。(昨年度9回)</li> </ul> <p>(4月(新たに1日午前午後各1回)、6月(1日午前午後各1回)、7月(新たに輝翔祭(文化祭)と併催1回)、8月(2日午前午後各1回)、9月(1日午前午後各1回)、2月(1日午後1回))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスを輝翔祭(文化祭)で併催したところ、自由入場であったが、計24名の参加者があった。</li> <li>その他、昨年度に引き続き、校長及び管理担当副校長による指定校訪問(13校)を実施し、また、教育担当副校長による少人数相談会(10回)では、在校生との談話の時間を設けるなどの工夫を行った。</li> <li>入試では、指定校の成績要件(全体の評定平均値3.5→3.5(変更なし)、国数理の各評定平均値3.6→3.3)の見直しを行うとともに、本校の過去の入学者や学生の状況を勘案し、各校の推薦枠の見直しを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7(2025)年度入試(令和6(2024)年度実施)の結果、出願者数152名、合格者数94名であるが入学した学生は79名に留まった。</li> <li>特に一般入学試験は21名の合格者のうち14名が辞退となった。</li> <li>前年度の入学者数に比べ、23名の減員(102名→79名)が見られ、定員120名と比較すると65%の確保に留まった。</li> <li>指定校推薦要件等の見直しの結果、受験者数(入学者数)は、33名から39名と前年度比較で約18%増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7(2025)年度入試(令和6(2024)年度実施)の出願者数は152名と、前年度の165名との比較では、7名減(約8%減)であった。</li> <li>ただ入学者数は、合格者94名に対し79名であった。辞退者が15名と16.0%減少した。</li> <li>多数の辞退者が出たことで、高校生など出願者の中で、本校が他校(大学を含む)に比べ魅力度が低下(Wi-Fiの未整備等)している恐れがある。</li> <li>指定校の見直しによる数的確保ではある程度効果があったといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般入学試験合格者の辞退者が増えているのは残念である。</li> <li>合格倍率の出ない学校には子どもたちは行きたがらないから、合格倍率が出るよう、現実に即し入学定員を削減してもよいのではないか。</li> <li>大学志向があり、のきなみ看護学校が入学者確保に苦戦している中で、79名の入学者数を確保したことは、よい方だと考える。</li> <li>推薦の対象校を全国に広げたことは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も引き続き、WEB会議システムでの個別説明会個別学校説明会、オープンキャンパス、指定校訪問、少人数相談会、指定校訪問を実施する。</li> <li>進路指導担当教育等向け学校説明会は3回に増やす。</li> <li>オープンキャンパスの定員(輝翔祭併催含む)を各回30名から50名に増員するとともに、全て予約制にて開催する。</li> <li>Wi-Fiの早期整備など様々な工夫により、魅力度の向上に努める。</li> <li>学校推薦型選抜(指定校)及び学校推薦型選抜(公募)の推薦対象校を全国に広げる。</li> <li>今後の県立看護学校の在り方を検討する上で、定数についても議論できるよう当校の置かれた状況を県と共有する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

重点目標：2. 令和7年度入学生を確保する(看護学科)

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
入学生確保	看護学科	<p><b>【入学者の質的確保】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度、令和6(2024)年度入学に向けて実施したA0入試(現在「総合型選抜」)により、令和6(2024)年度入学生を確保(前年度79名→102名)した結果、<u>基礎学力に課題を多く抱えた学生が入学した。</u></li> <li>令和7(2025)年度入試に向けたオープンキャンパスでは、特に入学希望者に学校生活を深く理解いただくため、<u>在校生との対話を重視し、学生の生の声を聴けるよう、模擬授業・技術演習等を実施。保護者向けには、別室で教員との座談会を設け、学校に対する理解を深めた。</u></li> <li>また、<u>本校が入学を望む学生像(アドミッションポリシー)についても具体的な資料を提示して丁寧に説明した。</u></li> <li>令和7(2025)年度入試では、<u>一般入学試験の試験(国語、数学)を民間委託とし、内容も濃度計算など、看護師国家試験で求められる、より基礎的な学力が測れるよう工夫した。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6(2024)年度入学生に占める科目の未修得者の割合は全体18.6%のうちA0入試入学生は5.9%と1/3であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスでは、<u>在校生との対話を重視したことにより、入学希望者に理解が深まったものと認識。</u></li> <li>本学科のアドミッションポリシーに則り、入学を望む学生像を明確にし、具体的に説明することができた。</li> <li>一般入学試験では、<u>基礎的な学力を測る内容としたことで、各問の解答状況を分析し、入学後の学習達成度の参考とすることができるもの</u>と認識。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校卒業後の将来をイメージしてもらうことも含め、本校のよさを更にアピールすることが必要である。</li> <li>学費について、地方出身者が下宿して私立大学に通学するより安価なことなどをアピールすると、コストパフォーマンスを重視する今の世代に響くのではないかと。</li> <li>広報については、例えば、学校主体ではなく学生主体で、SNSの活用や、斬新な印刷物を制作すれば、学生と同世代である受験生に響くのではないかと。</li> <li>公表されているシラバスに二次元コードを付けて、その先生の授業が3分程度見られるようにすることも考えられる。</li> <li>奨学金の返済が将来の進路に影響しないよう保護者にもよく説明する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報については、受験生の若い世代に受け入れてもらえるよう、さらに効果的な手法を検討する。</li> <li><u>引き続きアドミッションポリシーに則り、入学を望む学生像を明確に示していく。</u></li> <li><u>学校推薦型選抜(公募)の推薦要件について、学力レベルを測るため、試験科目を「小論文及び面接」から「国語及び面接」に変更。</u></li> <li>引続き入試は民間委託を活用する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

重点目標：3. 実習施設を確保する(助産師学科)

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
実習施設確保	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、<u>実習施設(病院)は13施設(28名分)</u>であった。(実習施設(病院)の受入先は入学定員40名分を確保する必要)</li> <li>昨年度まで実習受け入れを休止していた病院2施設で実習を再開したが、<u>実習は滞りなく終了し、当該年度は、1学生9件以上の分娩介助を実施</u>できた。(分娩介助は実習期間中に10件程度必要)</li> <li>次年度に向けた実習施設(病院)の確保では、<u>施設数の増ではなく、1施設あたりの受入学生数の増を申し入れた</u>。その結果、<u>1施設より1名増(2名→3名)の受入を承諾</u>いただいた。しかし別の1施設(2名)が実習受入中止、1施設が1名減(3名→2名)となった。</li> <li>今年度、<u>実習施設(助産所)は、1施設の受入が中止となり、3施設に4名を配置して、10施設で実施</u>した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学生確保のためには、<u>実習施設の確保が必須</u>である。</li> <li><u>実習施設(助産所)10施設に対し、1施設の受入を2名から3名に増やすことを要請していたが、</u>地域分娩数の減や働き方改革推進等の理由で、分娩介助実習指導は日勤帯に限定する等の方針のもと、<u>10施設から従来どおり2名の受入を継続する旨の通知</u>があった。</li> <li>したがって<u>目標は未達成と判断</u>する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度に向けた<u>実習施設(病院)は、12施設(26名分)確保</u>し、入学生を26名確保することができた。</li> <li>次年度の実習施設(助産所)は11施設確保した。</li> <li>次年度に向け新たに確保した横須賀市の助産院は、<u>助産師学生の受入が初めての施設</u>であることから、<u>次年度は助産管理実習を依頼し、分娩数の推移を確認しつつ、ゆくゆくは継続事例実習施設としての受入を依頼する予定</u>である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習受入れ人数が減少しているのは、<u>出生数を考えれば、当然だと考える</u>。</li> <li>実習施設確保に向けた先生方の努力は評価できる。</li> <li>実習施設の関連施設に学生がボランティアに出向くなど、施設との関係を築くことが学生の受入れ数増に結び付くのではないかと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、<u>病院12施設、助産所11施設での実習を計画</u>している。</li> <li>学生にとって、<u>安全で効果的な実習としていくためには、施設数を増やすより、1施設での受入人数の増員が重要</u>。分娩数、臨床指導者含めた指導体制に鑑み、<u>現状2名受入の施設に対し、3名への受入増員を働きかけていく</u>。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校  
令和6(2024)年度 学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>次年度に向けて、より効果的な学びと</u>するために、また今後の分娩数の推移を見つつ、<u>横須賀市の助産院を新規実習施設として申請、確保</u>した。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習施設の受入れ人数と助産師学科の合格者数が連動している中で、定員が40名のままというのはいかなものか。</li> <li>・ 実習生を受け入れる施設側としては、出生数が減少している中で、他県から受入れの申入れもあり、1施設3名の受入れは困難と考える。一方で、1施設当たりの受入れ人数を減らし、その分施設数を確保しているため、教員が1つの実習施設を回る回数が減っていることに施設側としては不満がある。</li> <li>・ 無痛分娩を希望する者が増加していることから、分娩介助を従来どおり教えるには限界がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ また今後、<u>新築移転など予定する病院等もあり、その期間の実習受入は困難になると予測</u>される。該当病院と相談しつつ進めていくが、<u>新規施設を模索する必要がある</u>。</li> </ul>